

平成30年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	政策研究大学院大学	整理番号	U01
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) たなか あきひこ 氏名・職名 田中 明彦 (政策研究大学院大学)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) そのべ てつし 氏名・職名 園部 哲史(政策研究大学院大学副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) きじま ようこ 氏名・職名 木島 陽子 (政策研究大学院大学准教授)		
4. 類型	U <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	
	英語名称	Advanced Program for Global Leaders in the Changing World	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	Ph.D. in Advanced Policy Studies		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	政治学、経済学、地域研究		
8. 主要細目	(① 政治学 ) (② 国際関係論 ) (③ 経済政策 ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	財政学・金融論、経済史、地域研究		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	政策研究科政策専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 38 名					
外国人の人数		9 人	[ 23.7% %]	女性の人数	
				5 人 [ 13.2% %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 71.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			27 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			27 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				6 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者) 園部 哲史	ソノベ テツシ		政策研究大学院大学・副学長	開発経済学・ Ph. D. (経済学)	プログラムの統括、プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、エグゼクティブセミナー担当
(プログラムコーディネーター) 木島 陽子	キジマ ヨウコ		政策研究大学院大学・准教授	開発経済学・ Ph. D. (経済学・農業経済学)	プログラムのコーディネーター、プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、プログラムコミティー、チュートリアル、エグゼクティブセミナー担当
山本 吉宣	ヤマモト ヨシノブ		政策研究科政策専攻・客員教授	国際政治学・ Ph. D. (政治学)	先進国政策課題クラスターのチュートリアル
原 洋之介	ハラ ヨウノスケ		政策研究科政策専攻・客員教授	農業経済学、 経済発展論・ 農学博士	新興国政策課題クラスターのチュートリアル
堀江 正弘	ホリエ マサヒロ		政策研究科政策専攻・特別教授、グローバルリーダー育成センター所長	行政学・MPA (行政学)	プログラムコミティー、新興国政策課題クラスター・チュートリアル
恒川 恵市	ツネカワ ケイイチ		政策研究科政策専攻・特別教授	政治学・ Ph. D. (政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、新興国政策課題クラスターのチュートリアル
大塚 啓二郎	オオツカ ケイジロウ		神戸大学・特命教授	開発経済学・ Ph. D. (経済学)	新興国政策課題クラスターおよび途上国政策課題クラスターのチュートリアル
有本 建男	アリモト タテオ		政策研究科政策専攻・教授	科学技術政策・ 修士(物理化学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
今野 雅裕	コンノ マサヒロ		政策研究科・学長特別補佐・教授	教育政策、 文化政策・ 文学士	プログラムコミティー
大田 弘子	オオタ ヒロコ		政策研究科政策専攻・教授	公共経済学、 経済政策・ 社会学士	プログラムコミティー、先進国政策課題クラスターのチュートリアル
島崎 謙治	シマザキ ケンジ		政策研究科政策専攻・教授	社会保障法、 医療政策論・ Ph. D. (商学)	プログラムコミティー、新興国政策課題クラスターのチュートリアル
大辻 義弘	オオツジ ヨシヒロ		政策研究科政策専攻・客員教授	アジア経済論、 多国籍企業投資動向・ LLM (法学)	グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
Munro Alistair	モンロー アリスティア		政策研究科政策専攻・学長特別補佐・教授	公共経済学、 環境経済学・ Ph. D. (経済学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
黒澤 昌子	クロサワ マサコ		政策研究科政策専攻・教授	労働経済学、 計量経済学・ Ph. D. (経済学)	プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義
増山 幹高	マサヤマ ミキタカ		政策研究科政策専攻・理事・副学長・研究科長	日本政治、 議会制度、 計量分析・ Ph. D. (政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、先進国政策課題クラスターのチュートリアル
Estudillo Jonna P.	エステューディオ ジョナ		政策研究科政策専攻・教授	経済学・ Ph. D. (経済学)	プログラムコミティー、途上国政策課題クラスターのチュートリアル
道下 徳成	ミチシタ ナルシゲ		政策研究科政策専攻・学長特別補佐・教授	安全保障、 戦略研究・ Ph. D. (国際関係学)	プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および先進国政策課題クラスターおよびグローバル政策課題クラスターのチュートリアル

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 ／学位	役割分担 (平成30年度における役割)
角南 篤	スナミ アツシ		政策研究科政策専攻・副学長・教授	科学・産業技術政策論、公共政策論・Ph. D.(政治学)	プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および先進国政策課題クラスターのチュートリアル
Patarapong Intarakumnerd	パタラポン インタラクムナード		政策研究科政策専攻・教授	科学技術政策・Ph. D.(科学技術政策)	プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義および新興国政策課題クラスターのチュートリアル
鬼丸 武士	オニマル タケシ		政策研究科政策専攻・客員准教授	アジア国際関係系、比較地域研究・博士(地域研究)	プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、歴史基礎講座での講義、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
杉原 薫	スギハラ カオル		総合地球環境学研究所・特任教授	グローバル・ヒストリー、アジア経済史・博士(経済学)	グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
武田 文男	タケダ フミオ		政策研究科政策専攻・教授	災害対策、危機管理・博士(情報学)	プログラムコミティー、グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
Kanchoochat Veerayooth	カンチュウ チャット ベーラユース		政策研究科政策専攻・准教授	政治経済学、東南アジア地域研究・Ph. D.	プログラムコミティー、方法論基礎講座の講義
Ginandjar Kartasasmita	ギナンジャール カルタサスマタ		インドネシア大統領諮問会議委員、元インドネシア経済・金融・産業担当調整大臣	経済政策・Ph. D.	リーダー養成基礎講座の講義、エグゼクティブセミナー担当
Thanong Bidaya	タノン ビダヤ		タイ・タップウォーター・サプライ会長、元タイ財務大臣	財政、金融政策・Ph. D.(経済学)	リーダー養成基礎講座の講義
Khoo Boo Teik	クー ブー テック		政策研究科政策専攻・教授	東南アジア政治研究・Ph. D.(政治学)	プログラム運営委員会委員、プログラムコミティー、新興国クラスターのチュートリアル
武内 進一	タケウチ シンイチ		日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター長	アフリカ研究、国際関係論・博士(学術)	途上国政策課題クラスターのチュートリアル
本名 純	ホンナ ジュン		立命館大学国際関係学部国際関係学科(兼)国際関係研究科・教授	比較政治学、インドネシア政治研究・Ph. D.(政治学)	グローバル政策課題クラスターのチュートリアル
渡邊 博史	ワタナベ ヒロシ		公益財団法人 国際通貨研究所理事長	国際金融、M. A.(Economics)	基礎講座等における特別講義
小縣 方樹	オガタ マサキ		東日本旅客鉄道株式会社取締役副会長	技術、国際関係・学士(工学)	基礎講座等における特別講義
中田 亮輔	ナカタ リョウスケ		独立行政法人国際協力機構アメリカ合衆国事務所 所長	開発マクロ経済政策・開発援助政策・M. A(Economics)	エグゼクティブセミナー、及びパースペクティブオブザワールドの企画担当
高木 佑輔	タカギ ユウスケ		政策研究科政策専攻・助教授	地域研究(東南アジア)・政治学・博士(法学)	プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、プログラムコミティー、途上国政策課題クラスターのチュートリアル、プログラムアドミッション、エグゼクティブセミナー、ホームページ等広報資料の作成担当
山内 慎子	ヤマウチ チカコ		政策研究科政策専攻・助教授	開発経済学・Ph. D.(経済学)	プログラムコミティー、途上国政策課題クラスターのチュートリアル担当
Paul Kandasamy	ポールカンダサミー		政策研究科政策専攻・非常勤講師	応用開発研究・修士(ESL)	基礎講座、アカデミックライティング及びアカデミックプレゼンテーション指導論文校閲

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
横道 清孝	ヨコミチ ミチタカ		政策研究科政策専攻・理事・副学長・教授	地方自治論・ 法学士	プログラム運営委員会委員、ワーキンググループ、プログラムコミティー、基礎講座担当
松本 朋哉	マツモト トモヤ		小樽商科大学商学部・准教授	開発経済学・ Ph.D. (経済学)	途上国の政策課題クラスターのチュートリアル担当
Katerina Petchko	カテリナ ベチコ		政策研究科政策専攻・教授	Education and Development ・ Ed. D. (Curriculum and Instruction)	プログラムコミティー、基礎講座、アカデミックライティング及びアカデミックプレゼンテーション指導
白石 隆	シライシ タカシ		熊本県立大学・理事長	地域研究・国際関係論・政治学 Ph. D. (歴史)	プログラム運営委員会委員 新興国政策課題クラスターのチュートリアル

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### <本プログラムの概要>

本学位プログラムでは、歴史や深い教養に裏打ちされた大局観を持ち、長期的かつ複眼的で幅広い視野からの確かな判断ができる能力を有し、新しい世界秩序・地域秩序の形成に参画する意思と能力を併せ持った、国家・国際機関・産業界などの各界で指導的な役割を果たしうるトップリーダー(Leader of Leaders)を養成する。

世界は今、大きな変化と深刻な危機に直面している。これは、グローバル化の進展や新興国の台頭等による世界的な富と力の分布の変化、根源的な価値観や利害の対立、既存のグローバル・ガバナンスの仕組みやルールの機能不全などに起因する。その結果、金融危機やテロ、エネルギー問題、環境問題等の諸問題を従来の枠組みや手段では解決できなくなっている。これらの危機や問題を根本的に解決し、新たな時代を切り開くためには、(1)偏狭な価値観や歴史観を超克し、直面する諸課題を過去から未来へとつながる時間軸の中に位置づけ、様々な角度から検討することで問題の本質を見抜く大局観を持ち、(2)個々の課題に実効性ある処方箋を提示することができる課題分析能力と、(3)さらには自己の見解を言語や文化、歴史、宗教、民族、国籍などの違いを越えてより多くの人に分かりやすく伝えることができるコミュニケーション能力を兼ね備えた人材が不可欠である。このような人材は専門家養成に重点を置いた、従来の人材育成の在り方では育てることは出来ない。

このような問題意識と、これまでの政策領域における人材養成の豊富な実績を踏まえ、新たな学位プログラムを開発した。このプログラムは、これまで日本の大学院教育やリーダーシップ・トレーニングでは重視されてこなかった歴史や教養を基礎に据え、学生の「物の見方(perspective)」を徹底的に鍛え上げる点に特徴がある。目的は、特定の分野に特化した専門家ではなく、多くの分野を架橋して、新しい国内・国際秩序形成に指導的な役割を果たすことができる各界のトップリーダーを養成することにある。さらに、本学位プログラムで開発する新しいトップリーダー養成モデルを国際的に発信し、この分野で世界的にもオンリーワンの大学院となることを目指している。

### <特色・優位性>

- 国内外から学生を受け入れ、実務経験のあるミッドキャリアの政策プロフェッショナルや、キャリアの転換を試みる社会人、あるいは学部や修士課程の新規卒業生を、政・財・官等で活躍できるトップリーダーとして養成する。
- カリキュラムはすべて英語で提供し、日本人学生と留学生とが共に学び、国籍、文化、専門を超えて競争し協力できる能力を涵養する。
- トップリーダーとして必要な大局観、課題分析能力、コミュニケーション能力をバランスよく養成できるカリキュラムを提供する(歴史や教養の重視、少人数のチュートリアル必修化等)。また、論文のみならず、課題対応力審査委員会等、大局観についても適切に評価する仕組みを導入し、学位の質を保証する。
- 危機管理対応時に必要とされる判断力やコミュニケーション能力等を、さまざまな形式のディベートや、チュートリアル等を通じて養成する。
- 学生にリーダーとは何かを理解させるため、実際に国家レベルの危機管理をおこなった経験を有する政・財・官・学の各界の指導者を国内外から講師として招く。
- トップリーダーとして活躍するための財産となる、教員や有識者、学生間のネットワークを形成することができる。

なお、本学では日本人学生と外国人学生の比率は1対2となっており、毎年60数か国から多くの優秀な学生を受け入れているため、文化、歴史、言語等の違いを乗り越えてグローバル社会の発展をリードするリーダーの育成に格好の環境を本学は提供している。

### 学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

